



—ふくしまの未来のために復興を支援します—

一般財団法人 ふくしま市町村支援機構

土 木

「いいたて村の道の駅までい館」がオープンしました

平成29年8月12日、県道原町川俣線沿いに「いいたて村の道の駅までい館」がオープンしました。当機構は、本施設に係る造成工事の積算・現場管理業務や建設工事の積算業務等を受託し、施設の整備をさまざまな面から支援してまいりました。



造成工事の現場管理業務



竣功式でのテープカット

飯館村深谷地内に開業した同施設は、同村の復興拠点として位置づけられる県内31番目の道の駅。花玉が天井を彩る「までい館」の中に、レストランや生活必需品を購入できるコンビニエンスストア、農業の復興を支える花卉展示販売ホールなどを備えています。

までい館の北側には住宅や花卉栽培エリアが整備される予定で、現在造成工事が進められており、当機構は現場管理業務を受託しています。

当該道の駅について、当機構は、敷地造成工事をはじめ、太陽光設備設置工事、までい館の建設工事、給水管敷設工事等について、積算業務や現場管理業務を受託し、施設整備を多面的に支援してまいりました。

当機構は、今後とも、土木事業の計画・調査・測量・設計・積算・工事管理等の支援を通じて、復興に向けたまちづくりに貢献してまいります。

(土木2課 ☎ 024-522-3095)

Contents

橋 梁	②	橋屋橋の現場研修会に参加しました
支 援	④	現場管理ワンポイントアドバイス ～その② 丁張編～
職員紹介	⑤	土木2課 技師 鈴木 学さん (猪苗代町 実務研修生)
地域情報	⑥	ふくしま街道・川ものがたり ～沼田街道を継ぐ情趣溢れる鉄路・只見線～
土 木	⑧	田ノ入工業団地の造成工事が竣工しました

橋屋橋の現場研修会に参加しました

本年8月4日と9月1日の2回にわたり、当機構の若手職員を中心としたのべ26名が、技術力向上を目的に、西会津町の橋屋橋で行われた橋梁架設工事の現場研修会に参加しました。

西会津町では、町道野沢柴崎線と県道で構成される「西会津町縦貫道路」の整備が進められています。本路線は、新潟県境に近い奥川地区と町の中心部を短時間で結び、安全で円滑な交通の確保と地域の発展に貢献するものです。

今般見学した橋屋橋は、本路線の一部で、阿賀川に架かる鋼床版箱桁橋です。旧橋は、架設から40年以上が経過し老朽化が著しい上、幅員が狭くすれ違いができない状況ですが、新橋完成後は、対面通行が可能となるほか、歩道も設置され、安全性が大きく改善されます。新橋は、町の最重点路線である町縦貫道路の一部であること、ニューマチックケーソン基礎を用いた長大橋であること等から、県代行業業として整備が進められており、当機構も、下部工及び上部工の積算を受託し支援してまいりました。

本工事では、架設の工法として送出し工法を採用しており、今般の現場研修会では、8月4日に送出し作業を、9月1日に桁降下作業を見学しました。架設現場の見学は初めてという参加者も多く、「箱桁が牽引ジャッキで1mずつ送り出されていく様子に興奮した。」「図面でしか見たことがなかった工事の実際の規模を感じられた。」などの感想が寄せられ、意義深い会となりました。

橋屋橋の上部工工事は来年3月の竣功を予定しており、現在、床版の施工が進められています。



■ 橋屋橋 (はしやばし) の概要

発注者：福島県喜多方建設事務所

施工者：協三・川田特定建設工事共同企業体

箇所：耶麻郡西会津町大字野沢 地内

形式：鋼2径間連続鋼床版箱桁

橋長：185.0m

支間長：91.5m+91.5m

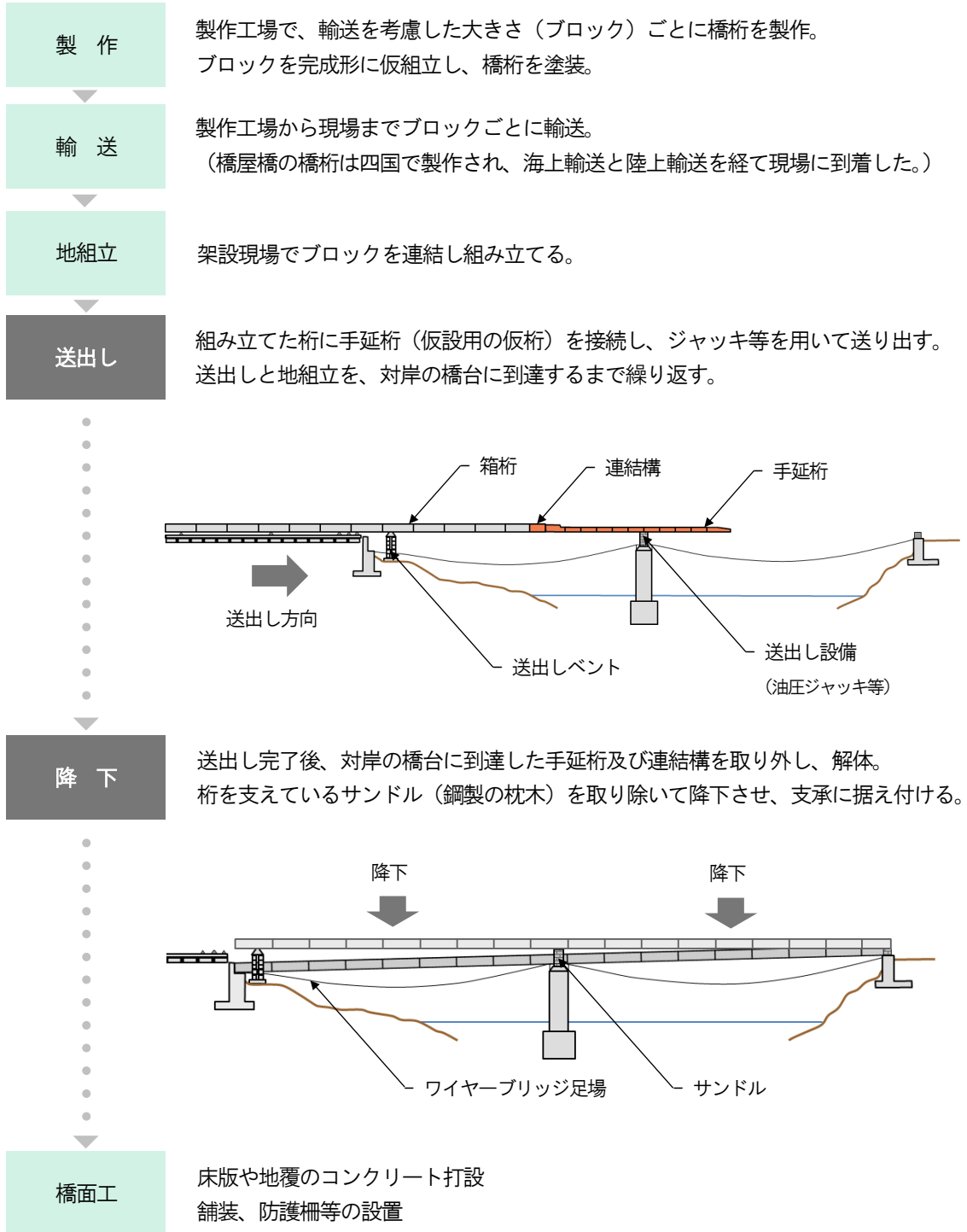
有効幅員：8.5m (車道 7.0m、歩道 1.5m)



手延桁がP1橋脚に到達した時の様子（東から撮影）。新橋は旧橋の東（上流）に架けられる。

■ 橋梁架設工事のフロー（手延式送出し工法の場合）

送出し工法は、幹線道路や鉄道・河川等を跨ぐ場合等、桁下にクレーンを設置しての架設作業が難しい場合に用いられます。重連式送出し工法、台船送出し工法等の種類があり、橋屋橋は手延式を採用しています。



当機構は、今後も、現場研修会をはじめとする研修等を通じて技術力の向上に努め、橋梁事業の計画・調査・測量・設計・積算・工事管理を支援してまいります。

（ 構造技術課 ☎ 024-572-6321 ）

現場管理ワンポイントアドバイス ～その② 丁張編～

現場作業開始に当っては、まず、現場状況に合わせた施工丁張（ちょうはり）を設置しなければなりません。丁張の確認に際しては、以下の点に注意してみてもいいでしょうか。

丁張とは、切土・盛土及び構造物等の位置や高さなどを示す目印のことです。工事監督員は、請負者が設計図書に基づき設置した丁張について、立会により以下の4点を確認する必要があります。

- ①丁張の基準高、位置
- ②用地幅杭との関連
- ③用地水路系統計画と現地の整合
- ④隣接地の出入り及び取付道路の取り合い



盛土法丁張の立会検査

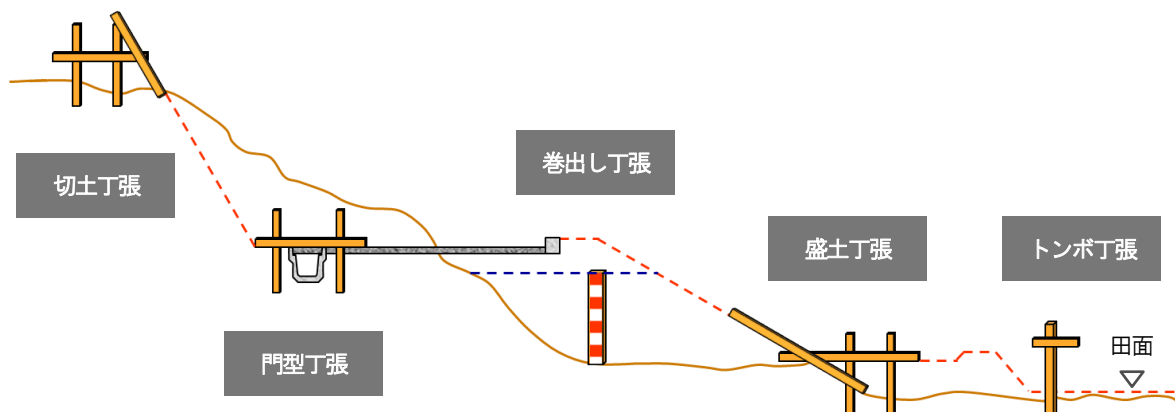
■ 主な丁張の仕様と規格値 （出典：『共通仕様書 土木工事編Ⅱ』（福島県土木部））

- ・ 道路・ダム・橋台工事等に伴う切土・盛土の「法丁張」 ……切土工 H=±50、盛土工 H=-50
- ・ 排水構造物・縁石工事等に伴う「門型丁張」 ……排水構造物工 H=±30
- ・ 造成工事・田面基盤整備等の「トンボ丁張」 ……土工 H=±50
- ・ 盛土・埋戻し工事等の「巻出し丁張」 ……路体盛土 t=30cm以下、路床盛土 t=20cm以下

（※巻出し丁張以外は単位：mm）

☑ 丁張確認時のポイント

(1)	世界測地系に基づく基準点、もしくはその点より適正な補正によって配置した基準点に基づき、丁張を設置しているか。	<input type="checkbox"/>
(2)	丁張設置時に用地境界を侵していないか。	<input type="checkbox"/>
(3)	誤った作業を未然に防ぐ対策として、測点・勾配・高さ等の表記がされているか。	<input type="checkbox"/>
(4)	丁張の規格値は、工事内容に合致したものを採用しているか。	<input type="checkbox"/>



（土木2課 ☎ 024-522-3095）

「“頼られる土木技術者”を目指して、ここでできる限り多くのことを吸収したい。」

業務部 土木2課 技師
(猪苗代町 実務研修生)

鈴木 学



正真正銘の“素人”からのスタート

鈴木 学(すずき まなぶ)さんは、猪苗代町から当機構に出向している実務研修生だ。大学では電気工学を専攻し、入庁後は税務課に所属。土木とは無縁の生活を送ってきたので、自分が研修生に選ばれるとは想像もしていなかった。

「平成27年4月の赴任当初は、床掘りと掘削の違いもわからないくらいの素人でしたから、職場で飛び交う専門用語についていけず、苦労しました。設計積算システムの使い方を一から学んで積算の練習をしたり、現場に出張して打合せに出席したり……。少しずつ知識を身に付けて、何とかやってこられたという感じです。」

鈴木さんはそう謙遜するが、昨年10月には、2級土木施工管理技士の試験に初めて挑戦し、見事合格している。未知の世界に臆することなく挑む、その好奇心と熱意には脱帽だ。

「受験前には、出張に向かう車の中で上司が問題を出して鍛えてくださったり、合格した時には、土木2課のみなさんがお祝い会を開いてくださったりしました。みなさんのあたたかさが嬉しかったです。」と鈴木さん。改めて、試験合格を心から祝福したい。

まだまだ学びたいことがたくさんある

現在は、造成工事や道路改良工事の積算・現場管理業務を担当している。

「積算業務に関しては、2年かけて業務の一連

の流れを学べましたし、最近は施工機械の選定に当たって現場条件を考慮したりもできるようになってきたので、技術的な面でも少し成長できたかなと思っています。道の駅や通学路の拡幅工事など、今まであらゆる現場で経験を積んできましたが、自分の目で工事の様子を見て、現場の技術者の方々から生の声を聴けたことは、自分にとって大変貴重な財産です。」

そうした“生きた学び”は、工事現場のみならず、工程会議など打合せの場でもたくさん得られる。以前、ある現場で工事が予定どおりに進んでいない時、上司が打開策を提案したことがあった。

「たった一つのアドバイスで現場がスムーズに動くようになり、上司の技術力の高さを改めて感じました。打合せでの上司の提案にはいつも感服しきりで、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると思い知らされます。支援機構は、発注者にとって技術的な助言を求められる心強い存在。研修生でいられるうちに、できる限り多くのことを吸収して、持ち帰りたいです。」

目標は、“土木なら鈴木”と思ってもらえるような職員になること。今はまだ受験資格がないが、来年以降、1級土木施工管理技士の試験にも挑戦したいと考えている。

「最近バイクの免許を取りました。支援機構にツーリング好きの方が多くて、影響を受けて。」

趣味でも挑戦を恐れない鈴木さん。その旺盛な好奇心が、土木技術者としての彼の世界を更に広げ、豊かにしていくことだろう。

ふくしま街道・川ものがたり ～沼田街道を継ぐ情趣溢れる鉄路・只見線～



大志集落（金山町）を走る只見線。国道252号と交差する。

会津から西への往来に沼田街道があります。古くから会津と上州を結ぶ交易路として、馬車や人々の往来に盛んに利用されてきました。沼田街道（現国道252号）は、狭隘な溪谷を大きく蛇行する只見川、その急流が切り立った岩肌を彫りこんだ山裾のわずかな平坦地を縫うように整備が進められてきました。

この国道252号のわきに、JR只見線が、寄り添うように走っています。地形上、溪谷を走る只見線は、只見川を渡る橋梁と山腹を貫くトンネルが連続し、その合間に見られる山肌が独特な景観を演出しています。

JR只見線は、会津若松駅から新潟県の魚沼市小出駅に至る鉄路となりますが、その整備には歴史的に多くの苦難が見られ、開通に携わった人々の思いが集約されています。

只見線敷設の歴史は、大正8年、鉄道省主導の鉄道網敷設計画に「小出・柳津線」が含まれたことに始まります。計画されたルートのうち、塔寺（とうでら）駅から只見駅までの間は沼田

街道と重なっており、街道を意識した計画であったことが窺えます。

大正12年に小出駅が、昭和3年に会津柳津駅が開業し機運が熟すと、福島・新潟の代議士を中心とする地元の敷設運動が活発化。衆議院での建議には、沿線一帯はかつて会津藩領であり昔から人の往来が盛んであったこと、水・森林・鉱物資源が豊富なこと等が盛り込まれ、鉄路の必要性が訴えられました。

昭和10年、ついに敷設工事が開始され、同17年までの間に会津柳津・会津宮下間、小出・大白川間が開業。そして終戦後は、只見川の電源開発のための資材運搬路として、会津宮下・只見間の延伸が進められていくこととなります。

昭和46年、只見・大白川間が開業したことで、只見線は待望の全通を果たします。

運行本数が一日数往復で、利用客数はJR東日本管内で最下位に近い赤字路線ですが、県境を越える国道252号が積雪で半年間閉鎖されることから、豪雪地帯に暮らす人々の貴重な交通手段として重宝され、廃線を免れてきました。



左・上／朝日を受け第一只見川橋梁を渡る只見線

平成23年7月の新潟・福島豪雨で、橋梁の桁が損傷、流失するなど甚大な被害を受けた只見線。現在も会津川口駅（金山町）・只見駅間が不通で、バスによる代行輸送が行われています。鉄道の復旧には、膨大な費用がかかる上、旅客収入が少なく投資の回収が見込めないことなどが課題となっていました。地元の熱意により、今年6月、上下分離方式での復旧が正式に決定。只見線は、道路と同様、公共負担によって維持される社会インフラとして存続していくこととなります。

只見川が迫る大志集落は、只見川が湾曲してできた地形で、この渓谷では珍しく大きな平地があり、その中央部を只見線が走っています。

豪雪に耐え、初冬には白いベールが覆う、静寂な世界に暮らすこの地域。夏季には、只見川の川霧に包まれて集落が幻想的に浮かび上がり、存在感を主張するかのような赤や青に彩色された屋根から、延々と続いた集落の生活を垣間見

ることができます。冬季には、白く彩りされた急峻な山腹を背景に、どんよりとした鉛色の川面に囲まれた白い屋根の集落が現れ、四季の彩りが様変わりする日本の原風景が広がっていきます。

只見線を訪れた9月初めは、山腹が緑に覆われながらも、車窓からは時折黄金色の絨毯が姿を見せ、実りの秋が訪れようとしています。この後、白いベールがすべてを覆う世界を迎えますが、この束の間、只見線沿線は、白く切り立った岩肌の上に、まわりの山々がことごとく紅と黄に染まり、多くの来訪者の驚嘆が聞こえる季節がやってきます。

車内では、ディーゼルエンジンの唸りをもものともせず、世間話に花を咲かせる地元の人々。その和気あいあいとしたやりとりに耳を傾けているうちに、列車はいつの間にか川岸を大きく回り込んで、船着き場のような会津川口駅のプラットホームへと滑り込んでいきます。



川面に映る第四只見川橋梁と只見線

田ノ入工業団地の造成工事が竣工しました

当機構が積算及び現場管理業務を受託していた川内村の「田ノ入工業団地」の造成工事が、平成29年7月に竣工しました。本年12月の操業開始を目指し、今後、工場や社宅等が整備される予定です。



上／施工中 下／竣工後

昨年6月に村全域の避難指示が解除された川内村では、雇用の確保と定住人口の増加を目的として、村内初となる工業団地「田ノ入工業団地」の整備を進めています。

整備地は村東部の同村大字下川内字田ノ入地内で、県道小野富岡線沿い、常磐自動車道の常磐富岡ICから約16kmの好立地です。面積は約15haで、既に機械器具製造業や繊維工業等の企業4社が進出を予定しています。

昨年2月に造成工事に着手し、本年7月に竣工。現在、本年12月の操業開始を目指して、工場や社宅等の建設が進められています。

本工業団地について、当機構は、造成工事の積算業務及び現場管理業務を受託していました。

当機構は、今後とも、工業団地や住民の交流施設、ネットワーク道路の整備など、復興に向けたまちづくりを支援してまいります。

(土木2課 ☎ 024-522-3095)

試験審査所 住所変更のお知らせ

富田東土地区画整理事業のため、平成29年8月19日より、当機構試験審査所の郵便番号及び住所が変わりました。

【新住所】 〒963-8047 郡山市富田東二丁目245番地
TEL : 024-934-8700 / FAX : 024-991-1203

施設の所在地や電話番号、FAX番号は従来と同じです。



編集後記

福島県にお住まいでもまだ只見線に乗ったことがないという方は、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。乗車時間が長いことに抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、取材で訪れた際は、沿線の風景に夢中になっているうちに目的地に着き、あっという間だったという感想を抱きました。一雨ごとに秋が深まり、やがて一面の白に覆われた世界へと、沿線はこれからとりわけ魅力的な季節を迎えます。みなさまも是非、お出かけください。

ふくしまの復興を
支援しています



【編集・発行】 〒960-8043 福島県福島市中町7-17 一般財団法人ふくしま市町村支援機構
TEL : 024-522-5123 (代表) FAX : 024-522-3631 E-Mail : info2@fctc.or.jp

URL : <https://www.fm-so.org/>